

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 梅雨空の山岳部 山行報告

### その1 梶ヶ丘高校、槍へ(報告:松田大先生)

梅雨空の間隙？を縫って槍へ行ってきました。1年生3人、2年生4人の計7名と去る土曜日(18日)に上高地から入山し、ババ平で雨中のテント泊。日曜は幸い雨にも降られずに静かな槍を満喫してきました。以下概況です。

18(土)は雨を覚悟の入山、予報より早く、横尾手前から降り出した。生徒はカップ、小生はカサで誤魔化す。槍沢ロッジで幕営の手続きや情報収集した後、2時過ぎにババ平到着、直ちに雨中の幕営。装備の関係でテント内は濡れてはグワイはしごく悪いが、5時まで暫しの午睡。外は相変わらずの雨であるが、夕食後頃小降りに。我々の二張りのテント以外誰も居ない。それを良いことに就寝前に外で大声大会。やっぱし下ネタ?!ババ平の天場は横に大きな岩場があるので、適度に反響して大声を張り上げるのには極めてグワイが良い。



19(日)3時起床、曇っていて星は見えないが、天気は回復しそうな気配。ヘッテンの要らなくなった頃出発。ババ平天場には雪はないが、暫く進むと雪があらわれ、大曲からは完全に雪上歩行となる。雪が堅いと撤退するつもりでの今回の山行(縣陵山岳部には軽登山靴に合うアイゼンがないので、端からアイゼンは持参しなかった)、幸いなことに雪は可成り腐っており、底の軟らかい靴でも歩けそう。全員センターの研修会に参加しているので、何とかなるだろうとそのまま進む。新リーダーの塩谷がぐいぐい引っ張る。小生は坐骨神経痛が左股関節に出、常に遅れる。

グリーンバンド下の急登も難なく突破。殺生横で小休止後一気に肩まで直登。ビッケル等をデポ後頂上へ。小生が先導するも、塩谷等に追い立てられ、13分で穂先到着、当然誰も居ない。早く付いた者は孫槍に出たブロッケンまで体験できた。順次到着したメンバーと景色を眺めながら長居をした。

下りが大変、高所恐怖症の生徒に指導しながら登りの倍以上の時間掛け下山。槍ヶ岳山荘に挨拶した後は一気に降る。雪が腐り危険性が少ないので、グリをする者、転がる者、尻で滑る者、駆け下りる者、銘々雪上を十分堪能しながら、40分ほどで大曲まで下りきってしまった。小生の神経痛も下りには出ずに助かる。ババ平に帰着後はパッキングをして下山に移る。槍沢ロッジで穂苅さんと遭遇、お茶をご馳走になりながら暫し談笑。後は一路上高地を目指す。幸い登りと違い下りは神経痛が出ないのでついて行ける。槍沢ロッジから横尾まで1時間を切って歩かされる。しかしここからの平坦路では再び神経痛に悩まされ遅れることとなった。

なんやかんやで3時前に上高地バスターミナル到着。5時前には自宅で入浴。有意義な週末でした。

### その2 池田工業高校、京ヶ倉へ

池工山岳部も「槍にいかが?」と、松田さんに誘われたのだが、土曜日はあいにく先約(後述)があったので、日曜日(19日)日帰りでハイキングを行なった。場所は、生坂村の京ヶ倉と大城。参加したのは3年生が1人、2年生1人、1年生が3人に顧問

が2名の7名。前日の土砂降りの影響が残っており、出だしはやや足場が滑ったが、天気は次第に回復、北アルプスの眺望こそなかったものの、愉快的な山行ができた。

顧問が二人なので、あらかじめ下山先になる「眠り峠」に車回しをし、万平集落の先の登山口を9時に出発。このコースについてはかわらばん358号(2010.06.08)を参照されたいが、このところ村でもかなり手を入れて観光PRしている。駐車場も昨年より500m奥の登山口に整備されて、道もかなり手が入っている。何より驚いたのは、昨年は未舗装のダートだった眠り峠までの林道が全面舗装されていたことだった。

さて、生徒たちは2週間前の県大会にはじめて正規チームとして参加し、登山の面白さに気づきはじめ、読図や天気図を少しずつ勉強したいという気持ちを持ち始めている。出発時に現在地の確認をし、途中途中で読図をして進んでいく。稜線に出るとレンゲツツジが見事、稜線上には岩が露出し、標高の割には高度感もあり、生徒も満足。10:50京ヶ倉山頂。さて、生徒には初めての山、ここからは358号を読んでいる方には種明かしが済んでいるのだが、実は地図上の記載と現地の記載が矛盾している。(下に再掲)生徒にはそれを内緒にして、読図をさせる。京ヶ倉を出て歩いて行くと次の顕著なピークに大城という看板が立っている。ところがここは地図に記載されている大城ではない。それを知らない生徒は、当然大城についてと疑わない。更に進んで、「地図上の大城(その先には三角点がある)」についてとここで、ここはどこだろうと聞いて見る。地図は100%正しくない(または、地図と現実がずれていることがある)ということを知らない生徒は見事にだまされる。だまされた生徒たちは、その後、読図ってそういうことなのか!と目が空いた感じでいきなり三角点を探し出した。・・・愉快!愉快!

13:00、地図に歩いた道を書き入れさせながら、眠り峠まで縦走して、登山終了。ちょっと遊び心も取り入れながら、梅雨空の間隙をついた楽しい登山ができた。

(以下、358号の再掲)・・・稜線をさらに北上し、10分で「大城(970m)」に着いた。地元ではここを「大城」と呼び、実際にここに中世、生坂地方を領有した丸山氏の山城があったというからそれが正解ではあるのだろうが、2万5千図では、この地点には地名の記載がなく、ここより北方の三角点のある通称「物見岩」と呼ばれる辺りに「大城」と記載されている。インターネットなどでも情報が溢れているが、見た限りこのことに触れている人はいない。地図といえば、そもそも2万5千図にはこの山の登山道ははいっていない。・・・

## 池田工業高校山岳部 小学生にボルダリングを教える

18日(土)、地元池田町公民館の小学4年から中学1年まで対象の「チャレンジふるさと塾」。かねて公民館からの要請で、この企画の一つとして池工生に指導をしてもらい小中学生にボルダリングを教えてほしいとのことだった。地元の高校として役に立てるならと生徒には内緒で、オーケーしたのは僕だったが・・・参加してくれた部員は6名。小中学生11名。最初は互いに距離がうまくつかめず、ぎこちなかったが、講師として頼んだセンターの専門主事の傘木さんのリードもあって、半日の体験ではあったが、子どもたちも生徒たちも最後は一緒になって楽しんでいた。こんな体験もできるボルダー壁は池工山岳部にとって大きな活動拠点となっている。

